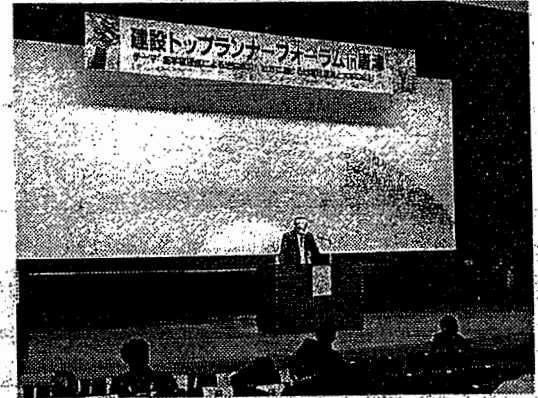


建設業者や大学関係者が先進的な取り組みを紹介した「建設トップランナーフォーラム」唐津市文化体育館



農業参入例など報告

建設業者ら 唐津で全国会議

先進的な取り組みを紹介する「建設トップランナーフォーラム」が十日、唐津市文化体育館であった。全国から建設業者や大学、自治体関係者ら二百五十人が参加。農業分野や環境ビジネスへの異業種参入での成功例などが発表された。

建設業者や大学関係者七人が発表。日本建設技術(唐津市)の原裕社長は、屋上緑化に使う廃ガラスを再資源化した

吸水性素材の開発を紹介した。ハーブや麻栽培の農業分野へ進出した舟山組(北海道)の舟山秀太郎社長は、食の安全安心志向の高まりを受け、「消費者から問い合わせが増えている」など話した。

佐賀大学低平地研究センター長の荒木宏之教授は、産学官連携の課題を説明。「企業からの問い合わせは漠然としたものが多く、課題を整理した方が、連携のスピードアップにつながる」と指摘した。

フォーラムは、厳しい経営状況の中で、新たな事業に挑戦する建設業者を応援しようと産学官の有志が〇六年に設立。年一回、全体会を東京で開催するほか、各地で分科会を開いている。佐賀開催は初めてだった。